

# 同窓会報

NO.44  
1998.2

発行——山形県米沢市門東町1丁目1番72号 九里学園同窓会事務局 TEL 0238-22-0091



オカリナ & シンセサイザー「母なる大地のうた」記念音楽会 1997.9.13

国際交流の実質的な元年でもあります。数年前よりオーストラリアとアメリカの交換留学制度があり、毎年数名の生徒がホームステイをし、国際理解を深めきました。今年度は、研修旅行として二十日間、オーストラリアで三十三名の生徒がホームステイ体験をしました。相手校生も本校を訪れ、日本の学校生活とホームステイ体験をし、世界に開かれた学園となりました。

皆様方の益々のご活躍と母校への一層の御支援をよろしくお願いします。

お元気でいらっしゃいますか。同窓生の皆様にお会いしたり、ご活躍の様子を耳にします時、先輩諸姉の確かな生き方にいつも敬服しております。

今年度の在校生の活躍も目覚ましいものがありました。陸上部・書道部・美術部・百人一首愛好会・ワープロ部、そしてデザイン選手権の全国大会出場です。特に原田選手のインターハイでの六位入賞(百ハーダル・混成7種競技共)、更に第五十二回国民体育大会では優勝(走り幅跳び)・準優勝(百ハーダル)と二つのメダルをとりました。



オーストラリアへ  
研修旅行  
教諭 遠藤利子

## 波のかさなり合う 音のよう

### 「母さんのうた」で 涙あふれる

(H 8年卒) 遠藤美和



今回の記念音楽会は、同じ九里学園を卒業した母と伯母と三人で聴きました。会場の文化会館は、大勢の同窓生でいっぱいでした。席に着くとあちこちに見覚えのある先輩や先生方の姿が見え、その話し声が心地よく感じられました。

オカリナやシンセサイザーは誰もが知っている楽器の一つです。でも実際に生の演奏を聴いたことがあるかと言つたらそんなに多くはないと思います。どんな演奏なのだろうかとワクワクしながら待っていました。緞帳が上がり絹の様に細く、しかし、しっかりと力強いオカリナの演奏が聴こえてきました。オカリナとはこんなにも多彩な音が出せるのか、ただただ感心しながら聴き惚れてしましました。シンセサイザーもさまざまな音が出せる、すばらしい楽器だと思いました。仲里さんのオカリナと国吉さんのシンセサイザーの音は、まるで海の波のかさなり合いのよう

ズ、童謡など私達が知っている曲ばかりでした。その中で特に印象に残っている曲は、最後の演奏で流れた「母さんのうた」でした。この演奏を聴き、私は横に座っている母の事を想い、母と伯母は、私にとっては祖母の事を想いました。三人とも、悲しい涙なのか、うれしい涙なのかよく分かりませんが、心のいっぱいつまつたところを、ふいにノックされたような気持ちになり、涙があふれました。

国吉さんと仲里さんは、視覚と聴覚に障害を持つおられる方ですが、人を感じました。

## 私の子守歌でした 詩吟は

(H 5年卒)  
佐藤多恵子

私はとつて詩吟は、身体の一部みたいなものです。母が家で詩吟を教え、父は尺八の伴奏をしておりました。小さい頃から詩吟は子守歌代わりでした。好き嫌いかと決める前には、詩吟は自然に覚えましたが、それが当たり前でした。もちろん幼い頃



三人共年代は違つても同じ九里学園を卒業し、オカリナとシンセサイザーの美しい響きを聴けたこと、そして女同志、同じ時間を共有出来、とても楽しいものでした。演奏が終了したら心が澄みわたり、すがすがしい気持ちになりました。また、来年もきっとこの記念音楽会を聴きにこようと約束し、心満たされて帰りました。

# 「とーびんと」

炉端で聞いた

## 昔がたり口演

### 同窓会総会

# サンマリーナ玉庭に —100人集う

(S23年卒 遠藤文子)

議が行われました。事業計画が報告され、音楽会、九里祭には多くの方々のお誘いと参加の呼びかけがなされました。

総会にひきつづき、研修会、

その後懇親会が催されました。

研修会は夕鶴の会の川合久男氏、山路愛子氏の昔がたり。つづいて切り絵スライドにかたりをして下さったのが四十二年卒

の長谷部恵美子さんでした。「とーびんと」とお話しは終わるの

ですが、幼い頃耳にした母親の声と混同し、うつとりとした気

分に誘われました。

懇親会は現職員、旧職員の参加もいただき、和やかな楽しい一時でした。

その際催し物として四十三年卒の方々の寸劇を見せていただき、皆さんのが多趣味さに殊のほか驚かされました。

また、佐藤多恵子さん(平成五年卒)と師匠に当たられるお母さん末子さん(昭和二十四年卒)に詩吟を朗詠していただき、艶のある声、心をうつ響きに会場の皆さんが陶酔させられました。

平成九年度の同窓会総会は六月二十九日、市内から少々離れた山あいの静かな場所、ホテルサンマリーナ玉庭で開催されました。この会を当番学年制で運営するようになってから三度目の当番で、卒業年末尾に二・三のつく学年が担当しました。特に今年から右記のほか今春卒業の新会員の方々も運営に加わっていただき、細部にわたり検討し、開催の運びとなりました。

当日は関東支部長・副支部長を含め二百名の参加がありました。総会では、事業報告、決算、予算の審



佐藤母娘による詩吟朗詠は、同窓生の耳と心を席巻し、凜として会場に響いた。多恵子さんは、H7年全国コンクールで優勝。

入った詩吟はよく口ずさみました。日本コロムビア全国吟詠コンクールに挑戦するようになつたのは、平成五年からでした。山形地区大会が七月に天童市で開かれ、予選を通過し、十二月に東京の決選コンクールに出場しました。翌日、コロムビア本社のスタジオで、出場吟の「静夜思」をレコーディングしました。その後、平成九年に仙台のコロムビア東北地区大会と、長野のコロムビア吟詠音楽祭に登場を依頼されたりしました。今までとは人と競う大会ばかりでしたが、依頼されるようになつてからは、別な緊張感を持つようになります。

詩吟人口は全国的に見て、減少していると聞いております。若い人がこの道に興味を持つようになれば、詩吟という伝統の芸術を守ることが出来ます。私このからの課題は、若い世代の人々に詩吟の良さを理解してもらう為に活動することだと思っています。

は詩の意味なんて分からず、母や母のお弟子さん達が吟じるのを知り、知っている言葉や、親戚の人の名前と同じ言葉が出てきたりすると、その部分が先に頭に入りました。節もだいたい覚え、気に

するが、親戚の人の名前と一緒に言葉が出てきたりすると、その部分が先に頭に入りました。節や、親戚の人の名前と同じ言葉が出てきたりすると、その部分が先に頭に入りました。節もだいたい覚え、気に

あなたの  
参加があれば  
なお楽しい

## 同窓会行事

八月 九里祭参加 同窓生作品展  
今年度は飯豊支部と三十名の作品の展示があ

四月 同窓会役員会  
六月 第二土曜日関東支部総会  
(隔年)  
最後の日曜日同窓会総会  
当番学年を中心に関運  
されます。同窓生の絆  
と友好を深める最大の  
イベントです。



九里祭参加 軽食売店  
カレー・玉こんにゃく・ジュース他の  
軽食は毎年、同窓生二十名ぐらいの  
方に手伝っていた  
だきつくつて販売して  
います。味は  
評判がよく人気が  
あり、すぐ完売に  
なります。

三月 新同窓会員入会式  
二月 同窓会報発行



(S30年卒)  
吉川宣子  
御夫妻

## 趣味興味エスカレート中

吉川和郎

今から三十八年前、雪がまだ残るころ  
に、米沢公民館（現上杉記念館）で挙式  
してから現在まで、平坦な道ばかりでは  
なかつたが、妻の努力で安定した楽しい  
人生を送つてきました。

私は、会社一辺倒で、早朝から夜遅く  
まで働き、他は全て妻任せで苦労を掛け  
ました。報いるべき事は、妻が熱心にやつ  
ている趣味に協力し、それを最大限伸ば  
してやるべきと考えています。

お花では最高クラス総特科を間もなく  
卒業できるはこびです。妻の趣味は他に  
お茶・写真・コイン・切手収集、そして  
旅行と多種多様にエスカレート中です。  
お花・お茶の道具や写真の整理棚など

これから先も体の続く限り、自分の趣  
味を十分に生かして、何時までも健康で  
若く、美しく優しい妻であり、私より、  
一日でも後まで生きて欲しいと願つてい  
ます。

（横浜市港南区在住）

で部屋が一杯になり、お弟子さんの稽古  
日ごとに道具の移動に苦労しているよう  
ですが、私には楽しんでいるように見え  
ます。



九月十三日  
記念音楽会  
三十二年続い  
てゐる創立記  
念日恒例の行  
事です。心待  
ちにして いる  
同窓生も大変  
多くなりまし  
た。

# 職場訪問

## お客様の種々の要望に 応えるのが私の仕事

米沢女子高正門より北へ二百メートル程の所に、料亭東家さんがあります。その趣のあるただいまに足を止められた方も多いのではないでしようか。女将さんが卒業生と伺いお訪ねしました。

鈴木宏子（旧姓皆川）さんは、東家さん四代目の女将としてがんばつておられます。大正八年建築のままという建物、すばらしい日本庭園、テレビドラマから抜け出た女優さんのような美しい着物姿の宏子さんは、私たちをとても優雅な気持ちにさせてくれました。

「お客様はわがままをしたくてここにいらつしやるのです。それに応えるのが私の仕事です。」とおっしゃる宏子さん、その陰には並々ならぬ努力がありました。

年上の仲居さんへの気遣いも、バレーチームワークで学んだ人との和が役に立ちました。合宿

五十年女子高卒業後東京に就職、米沢に帰つて今のご主人と知り合い、新しい一步を踏み出したのです。サラリーマンの家庭に育つた宏子さんにとって、料亭なんて別世界の事でした。山形の千歳館に三ヶ月見習いに行き、器の手入れや挨拶の仕方など、基本的な仕事の内容を教えてもらいました。

結婚後、昼夜反対の生活に慣れるまで大変でしたが、二人のお子さんにも恵まれ子育てもやれやれと思った頃、突然前の女将さんが亡くなられたのだそうです。途方に暮れる宏子さんをささえてくれたのはたのもしい旦那様と、高校時代バレー部で鍛えた根性でした。板前さんや年上の仲居さんへの気遣いも、バレーチームワークで学んだ人との和が役に立ちました。合宿

は辛かつたけど、何事にも負けない精神力はバレー部で鍛えられたおかげと、懐かしそうに語つておられました。

# 料亭東家

## 老舗ののれんを守る

(S51年卒) 鈴木宏子さん

旧姓 皆川



### 高校のバレー部で学んだ

### 人の和と精神力

（昭和四十六年卒 畠山みち子記）



### 夕方着物を着ると 緊張が走り、女将になる

普段はGパンにエプロンという普通のお母さんですが、夕方着物に着替えると緊張が全身を走り、女将に変身させてくれるそうです。予約の日にちを間違えてしまうという失敗もありましたが、お客様に正面にあやまり、精一杯の真心でおもてなしをしたところ、お客様も気分よくお帰りになり、胸をなでおろしたこともあつたそうです。

これからは若い人にも本当の日本料理を知つてもらいたいとのことです。「明治十二年創業」というのれんと格式を残しながら、私達のやり方で時代に合った料亭にしていかなければなりません。だれもが気軽に日本料理を楽しめるように、夏は庭でビアガーデンなんかやれたらってきて下さいね。」と夢を語つて下さいました。

# クラス会

## 九十九里浜で

(S 36年卒)



この度の三六会は千葉の人達が幹事となり、十一月八・九日、九十九里浜の米沢観光ホテルで行われました。千葉のホテルから米沢まで送迎のサービス付でした。そして、ホテルの名前がたまたま米沢とは絶妙な組合せです。

加藤和夫先生と、神原省治先生が参加して下さり、二十二名で思い出を紡ぎました。初めて参加の人もあり、宴会では歌と踊りとお話しで大いに盛り上りました。

た。高校の仲間との再会でみんな童心に返つて笑い合う一夜でした。

翌日は、鯛の浦、日蓮上人の誕生寺、海中公園等を見学し、見聞を深めました。

(金子恵久子記)

## 卒業して4年 大滝組集合

(H 6年卒 7組)

平成八年四月二十八日、東京第一ホテルを会場にして二回目のクラス会を行いました。ゴールデンウィークの初日で、何人集まるか不安でしたが、三十八名中二十二名が集まってくれました。現況報告と、ゲームを楽しみました。幹事は半年から準備したかいがあり、最高の想い出になりました。

(山崎智子記)



## 先生の人生論

(S 44年卒  
家庭科一・二組)

十一月二十三日長井のはぎ苑に泊し、昭和四十四年卒業家庭科一・二組会を開催いたしました。長井地区でいう事で不慣れな幹事でしたが、みなさんとの再会を楽しみに準備を始めました。

当日は、三十年勤続という平賀先生と、還暦を迎える小松先生の人生論をとくと聞き入りました。しばらくぶりで会った友との思い出話や、現実に戻り我が子の事など夜の更けるのも忘れて、女子学生に戻ったかのようにとても楽しい時を過ごす事が出来ました。

翌朝、参加できる人だけで長井の名所繩文村を見て廻りました。(平よう子記)



## 編集後記

九里祭や記念音楽会、総会と行事のたびに多くの同窓生の活き活きした笑顔に出会います。編集委員一同は、このみんなの元気を届けたいと、毎回はりきって編集しています。

どうぞ同窓生の情報を寄せ下さい。

今年の卒業生は、三百七名で、同窓会の新会員になります。どうかよろしくお願いいたします。

平成十年の総会は、六月二十八日(日)で、当番は卒業年に四と五のつく学年です。関東支部総会は、六月十三日(土)に行われます。お誘い合わせの上参加して下さい。

